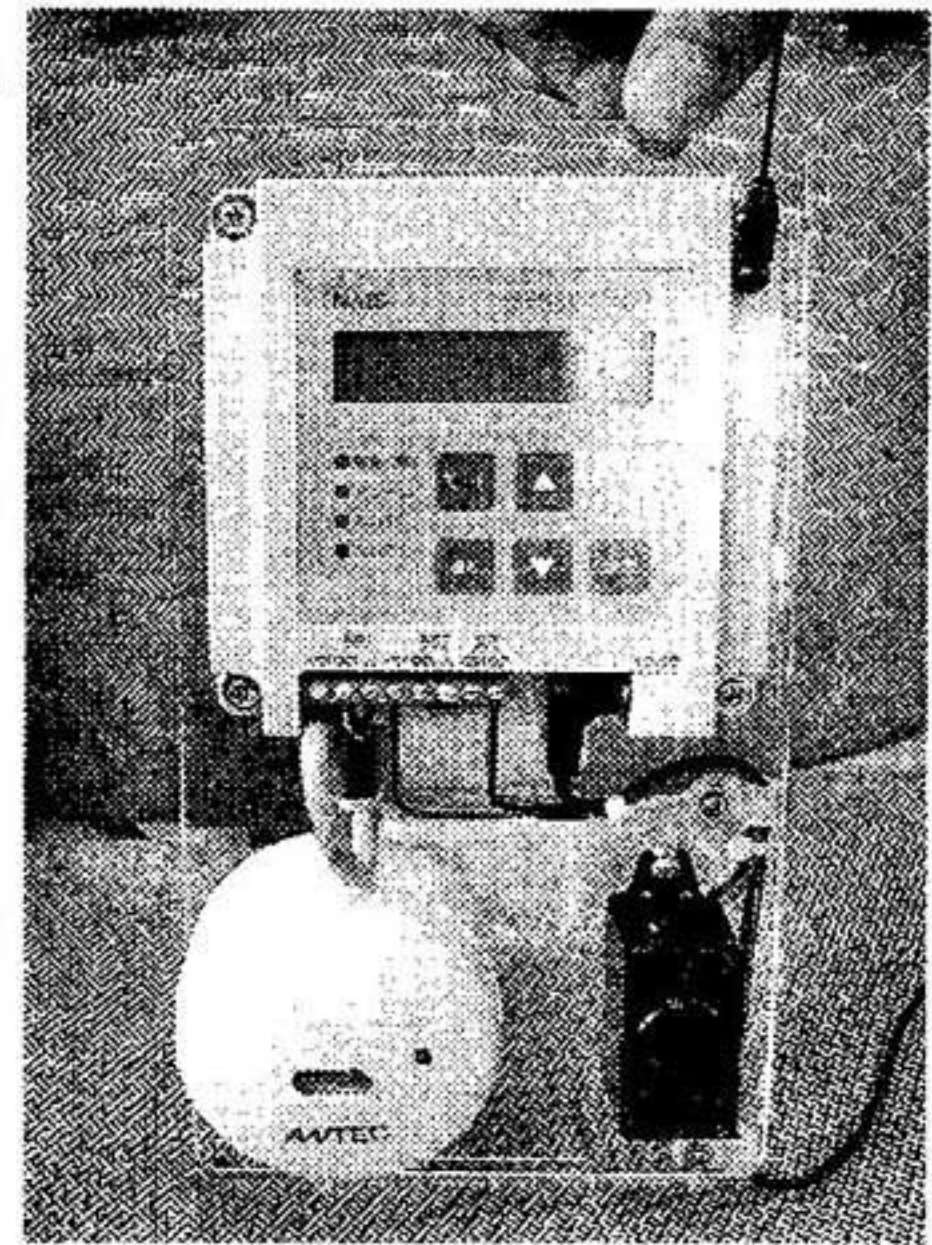


簡易通報装置を開発

アンテック、松下制御機器と



アンテックなどが開発した火災通報装置（展示用キット）

などにメールで知らせる簡易型の火災通報装置を開発した。電子機器商社を通じて、学校などの施設や住宅向けに販売を始める。

通報装置は、アンテックが開発した、炎に含まれる紫外線を太陽光の紫外線と見分けて検知する丸形のセンサー（直径六・八センチ）と、松下制御機器が開発したデータ通信装置で構成。住宅の壁や天井などに設置したセンサーが炎を検知すると、あらかじめ通報先として設定しておいた携帯電話やパソコンに「センサー

陶芸窯の温度制御器など開発のアンテック（岡山県邑久町）と、松下電工グループの松下制御機器（東京）は共同で、住宅などの初期火災をセンサーで検知し、携帯電話

が作動しました」などのメールが送られる仕組み

み。通報先は最大五件まで設定できる。

アンテックのセンサーは、熱や煙に反応する通常のセンサーと違い、五センチ先にある二センチ程度の小さな炎でも感知するため、火災の初期発見に役立つ。また、大気の影響で絶えず変動する太陽光の紫外線には反応しないため、屋外にも設置することができるのが特長。

同社が昨秋、東京で開かれた全国の中小企業の製品展示会にセンサーを出展したのが契機となって、松下制御機器と開発した。価格は一セツト十二万円程度の見込み。

地方経済

平成16年3月18日
山陽新聞